

淡路島における淡水魚の分布 —淡路市北淡地区—

印部善弘・浦島淳吉・松谷実璃・石山侑樹（淡路野生動物研究会）

はじめに

兵庫県の淡水魚の分布情報を総集した「兵庫県立人と自然の博物館 自然環境モノグラフ 4号 兵庫県の淡水魚」（兵庫陸水生物研究会編, 2008）の中には、淡路島の淡水魚の分布情報も整理されているが、1999年以前の情報が多く、最新の分類的知見及び分布情報を踏まえたデータの集積が望まれる。

本調査では、淡路島の淡路市北淡地区の河川を中心に淡水魚の生息確認調査を行い、当地区における淡水魚の最新の分布的知見を得ることを目的とした。

調査方法

調査は、2022年10～11月にかけて、淡路市北淡地区を流れる4河川を対象に、タモ網による捕獲調査を行った（図1）。捕獲した魚類の一部は室内に持ち帰り同定し、写真撮影を行った（写真1）。



図1 調査対象河川



写真1 写真撮影

結果と考察

調査の結果、在来種の可能性が高い種としては、純淡水魚のドジョウ、通し回遊魚のゴクラクハゼ及びクロヨシノボリの合計3種が新たに確認された（表1）。

河川別では、室津川と野島川でクロヨシノボリが新たに確認された。また、特徴的な種としては、郡家川及び室津川でシマヒレヨシノボリが確認された。シマヒレヨシノボリは郡家川及び室津川の1999年以前の記録において「種・種・型が不明」とされていたトウヨシノボリ類（橙色型、宍道湖型、縞鱗型）の縞鱗型の可能性が高く、池や沼、水路などの環境を好むことから、北淡地区には広く分布していると考えられた。

今後の展望

今後調査範囲を拡大し、淡路島における淡水魚の生息状況を引き続き把握するとともに最新のデータの集積を図りたい。

表1 淡路島（淡路市北淡地区）の淡水魚の分布

No.	生活型	和名	兵庫県 RDB 2017	既存調査河川				新規調査河川	
				郡家川		室津川		育波川	野島川
				1999 以前	2022	1999 以前	2022	2022	2022
1	純淡水魚	コイ（型不明）			●		●		●
2		ギンブナ		○		○			
-		フナ属					○		
3		カワムツ		○	○				
4		モツゴ		○		○	○		
5		ドジョウ	要注目					●	
6		ミナミメダカ	要注目	○	○	○	○		
7		ブルーギル		○	○	○			
8		ドンコ		○	○	○	○		
9	タイワンドジョウ		○						
10	通し回遊魚	ニホンウナギ	C	○			●	●	
11		スミウキゴリ				○	○		●
12		ウキゴリ	C						
13		ゴクラクハゼ					●		
14		シマヨシノボリ		○			○		
15		クロヨシノボリ	要調査				●		●
16		シマヒレヨシノボリ	要調査		○		○		●
-		トウヨシノボリ類		○			○		
17	周縁魚	ボラ			●		●		
18		キチヌ			●				
19		シマイサキ					●	●	
20		ミミズハゼ属					●	●	
21		ウロハゼ					●		
22		マハゼ					●		
23		ヒナハゼ	要調査				●		
24		アベハゼ			●		●	●	
25		クサフグ			●		●		
25種				10種	10種	8種	19種	4種	4種
				15種		21種			

備考) 生活型及び和名は「兵庫県立人と自然の博物館 自然環境モノグラフ 4号 兵庫県の淡水魚」(兵庫陸水生生物研究会編, 2008)に従った。表中の記号の意味は以下のとおりである。

- : 2022年に新たに確認された種
- : 2022年に確認できなかった種

